

北海道の花きをめぐる情勢

令和2年10月

北海道農政部生産振興局農産振興課

目 次

- 1 本道の花き生産の概要
- 2 国内需給の動向
- 3 作付面積の推移
- 4 産出額の推移
- 5 担い手の状況
- 6 流通・販売の状況
- 7 輸出入の状況
- 8 施策の方向

2 国内需給の動向

- 花きの国内需要は、景気低迷等の影響から減少傾向。
- 国内生産量は、切り花類、鉢ものの類、花壇用苗ものの類、球根類のいずれも、作付面積、生産量ともに減少傾向。一方、切り花類の輸入量は増加傾向。

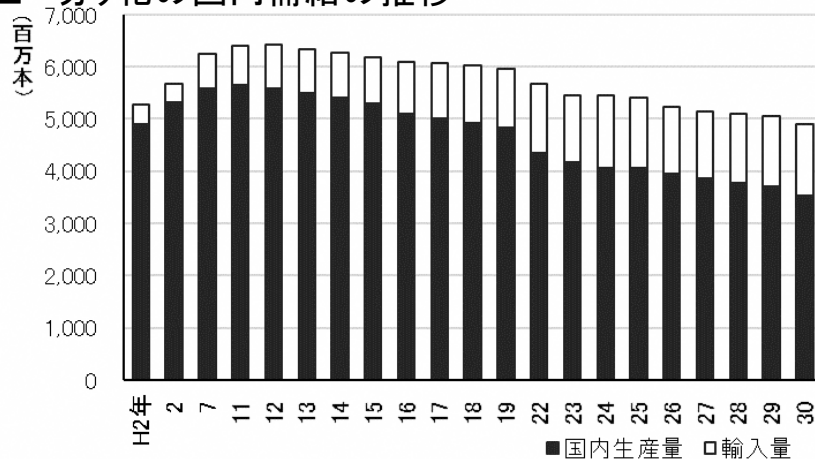
■ 花きの国内需給の推移

(単位: 百万本、百万鉢、ha)

区 分		H2年	7	12	17	22	27	28	29	30
切り花類	国内需要量	5,267	6,239	6,422	6,065	5,671	5,140	5,095	5,046	4,891
	国内生産量	4,909	5,582	5,593	5,020	4,351	3,867	3,781	3,704	3,534
	輸入量	358	657	829	1,045	1,320	1,273	1,314	1,342	1,357
鉢ものの類	国内需要量	191	245	305	310	261	230	227	221	210
	国内生産量	191	245	305	310	261	230	227	221	210
	輸入量	-	-	-	-	-	-	-	-	-
作付面積	切 花 類	15,700	19,000	19,700	17,910	16,200	14,820	14,590	14,460	14,170
	鉢 も の 類	1,450	1,880	2,160	2,145	1,859	1,732	1,675	1,643	1,605
	花 壇 用 苗 も の 類	419	816	1,670	1,728	1,569	1,488	1,450	1,401	1,378
	球 根 類	1,390	1,160	995	597	505	364	317	304	287

資料: 農林水産省「花き生産出荷統計」、「植物検疫統計」 国内需要量=国内生産量+輸入量

■ 切り花の国内需給の推移



資料: 農林水産省「花き生産出荷統計」、「植物検疫統計」
国内需要量=国内生産量+輸入量

3 作付面積の推移

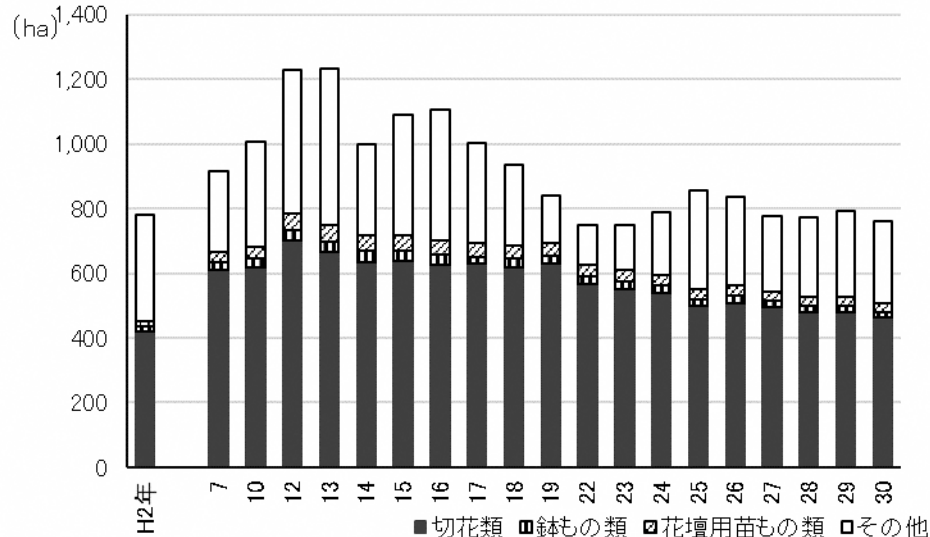
○ 本道の花きの作付面積は、切り花類、鉢ものの類は平成12年、花壇用苗ものの類は14年をピークに減少傾向にあるが、近年は横ばいで推移。

■ 北海道の花きの作付面積の推移

(単位: ha)

区 分	H2年	7	12	17	22	27	28	29	30
作付面積 (ha)	781	916	1,228	1,002	747	777	771	794	759
切花類	421	609	700	629	567	494	481	481	463
鉢ものの類	15	25	34	22	24	19	16	17	17
花壇用苗ものの類	14	33	50	44	34	31	29	28	28

資料: 農林水産省「花き生産出荷統計」及び北海道農政部「花き産業振興総合調査」



資料: 農林水産省「花き生産出荷統計」及び北海道農政部「花き産業振興総合調査」

4 農業産出額の推移

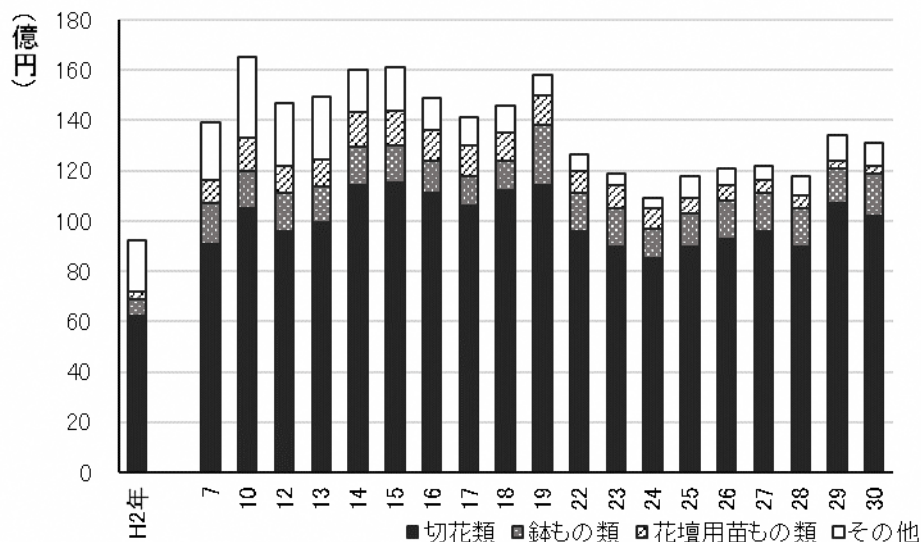
- 切り花の農業産出額は平成15年の115億円をピークに減少し、20年代には100億円を下回っていたが、29年、30年と100億円を上回っている。
- 30年の北海道の都道府県別産出額の順位は、花き全体では8位、切り花では4位となっている。

■ 花きの産出額の推移

(単位:億円)

区 分	H2年	7	12	17	22	27	28	29	30
農業産出額	92	139	147	141	126	122	118	134	131
切花類	62	91	96	106	96	96	90	107	102
鉢もの類	7	16	15	12	15	15	15	14	17
花壇用苗もの類	3	9	11	12	9	5	5	3	3

資料:農林水産省「生産農業所得統計」、「花木等生産状況調査」



資料:農林水産省「生産農業所得統計」、「花木等生産状況調査」

■ 都道府県別花きの産出額(平成30年)

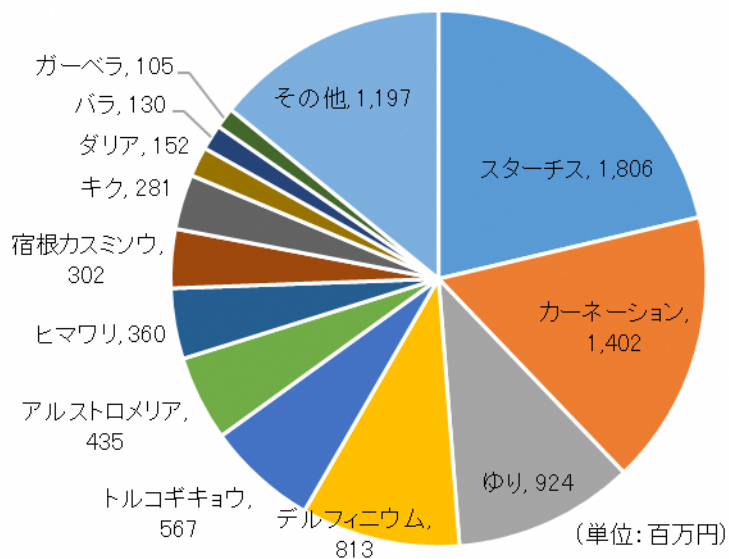
(単位:億円)

順位	花き全体		切り花	
1	愛知	543	愛知	307
2	千葉	193	千葉	127
3	福岡	172	福岡	103
4	埼玉	160	北海道	102
5	静岡	157	長野	96
6	長野	138	静岡	95
7	茨城	137	鹿児島	89
8	北海道	131	沖縄	82
9	鹿児島	130	高知	68
10	熊本	101	熊本	66

資料:農林水産省「生産農業所得統計」、「花木等生産状況調査」

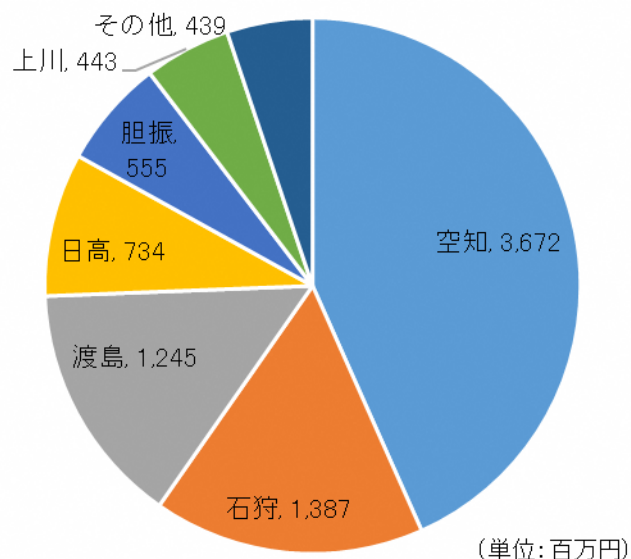
- 平成30年の切り花の品目別産出額は、スターチス(1,806百万円)が最も多く、次いでカーネーション(1,402百万円)、ゆり(924百万円)、デルフィニウム(813百万円)、トルコギキョウ(567百万円)の順となっている。
- 振興局別では、空知(3,672百万円)、石狩(1,387百万円)、渡島(1,245百万円)、日高(734百万円)の順となっている。

■ 切り花の品目別産出額(平成30年)



資料:北海道農政部「花き産業振興総合調査」

■ 切り花の振興局別産出額(平成30年)



資料:北海道農政部「花き産業振興総合調査」

5 担い手の状況

○ 本道における花きの単一経営及び準単一経営販売農家戸数は、平成17年の814戸から27年の542戸と10年間で33%減少している。

■ 花きを作付けした販売農家戸数の推移

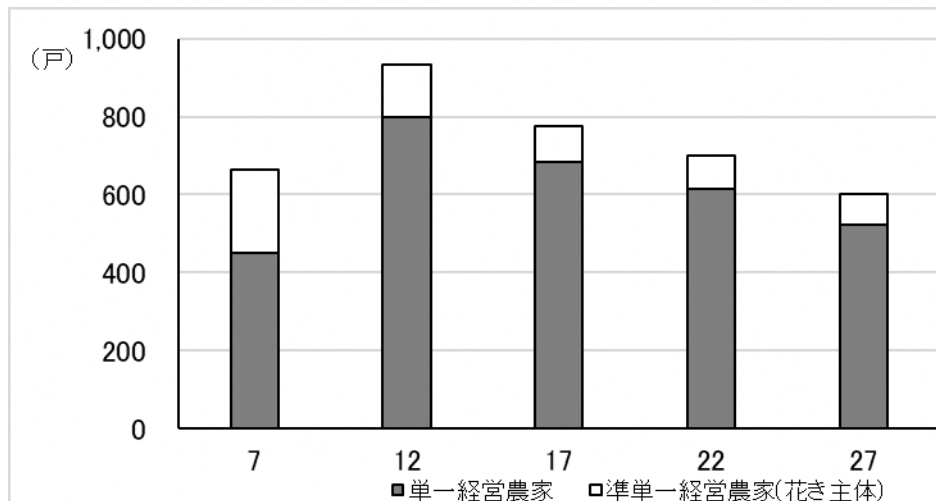
(単位: 戸、%)

	平成7年		12		17		22		27	
	戸数	比率	戸数	比率	戸数	比率	戸数	比率	戸数	比率
販売農家戸数	73,588	100.0	62,611	100.0	51,990	100.0	44,050	100.0	38,086	100.0
販売のため作付けした農家	1,878	2.6	1,443	2.3	2,089	4.0	1,841	4.2	1,512	4.0
販売額1位の農家	745	1.0	898	1.4	938	1.8	809	1.8	625	1.6
単一経営農家	449	0.6	499	0.8	533	1.0	481	1.1	381	1.0
準単一経営農家(花き主体)	214	0.3	287	0.5	281	0.5	232	0.5	161	0.4
単一・準単一(花き主体)計	663	0.9	786	1.3	814	1.6	713	1.4	542	1.4

資料: 農林水産省「農林業センサス」

注: 販売のため作付けした農家数は、平成27年は経営体数。

■ 花きの単一・準単一経営販売農家戸数の推移

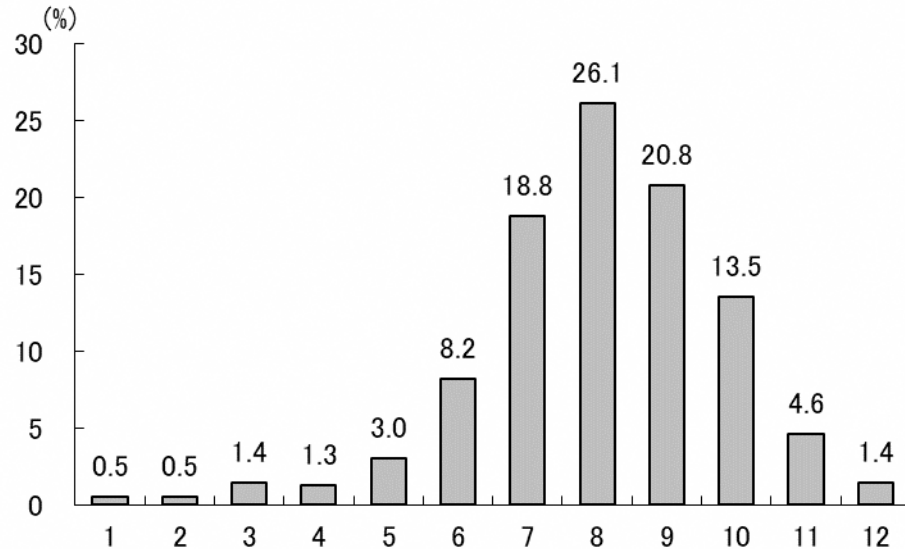


資料: 農林水産省「農林業センサス」

6 流通・販売の状況

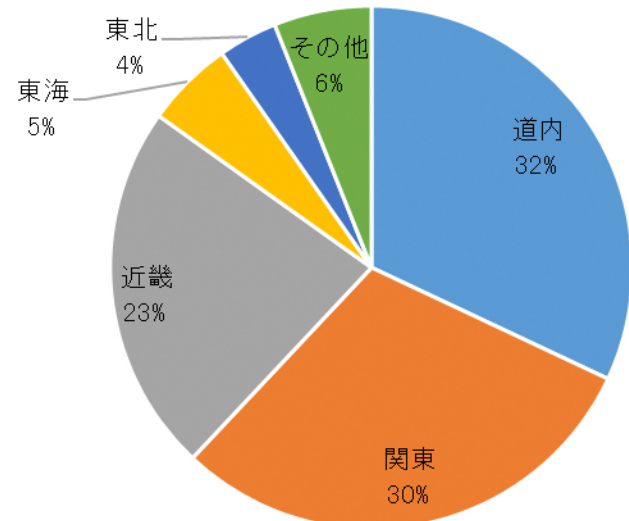
- 本道の切り花の出荷は夏に集中しており、平成30年は7～9月の3ヶ月間で年間出荷量の66%を出荷。
- 道外移出は全体の68%で、移出の手段はトラックが67%、航空機が33%となっている。

■ 切り花の月別出荷割合（平成30年）



資料：北海道農政部「花き産業振興総合調査」

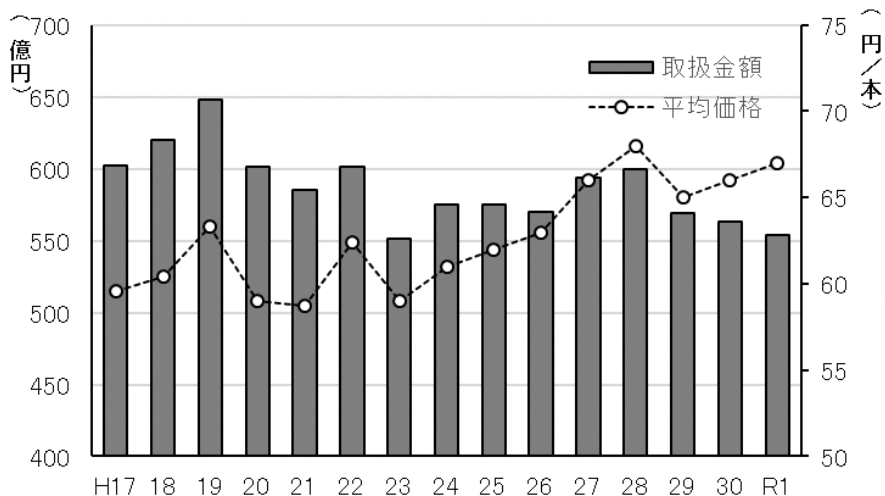
■ 切り花の出荷先別割合（平成30年）



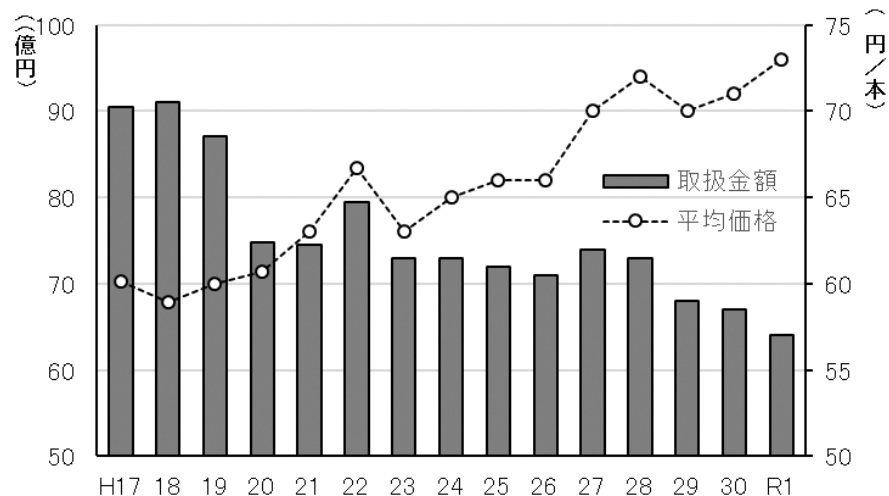
資料：北海道農政部「花き産業振興総合調査」

- 卸売市場における相対取引の拡大、インターネット等を活用した電子取引の活発化など、花きの取引形態は多様化が進んでいる。
- 道産花きの主な出荷先である東京都中央卸売市場及び札幌花き地方卸売市場における切り花の平均価格は増加しているものの、取扱金額は減少している。

■ 切り花の取扱金額及び平均価格の推移(東京・札幌)



資料: 東京都中央卸売市場年報

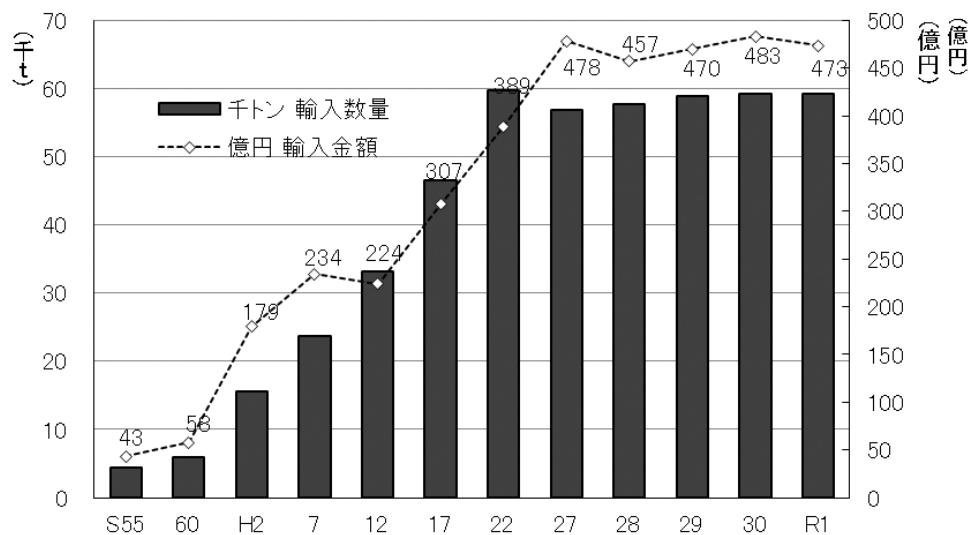


資料: 札幌花き地方卸売市場年報

7 輸出入の状況

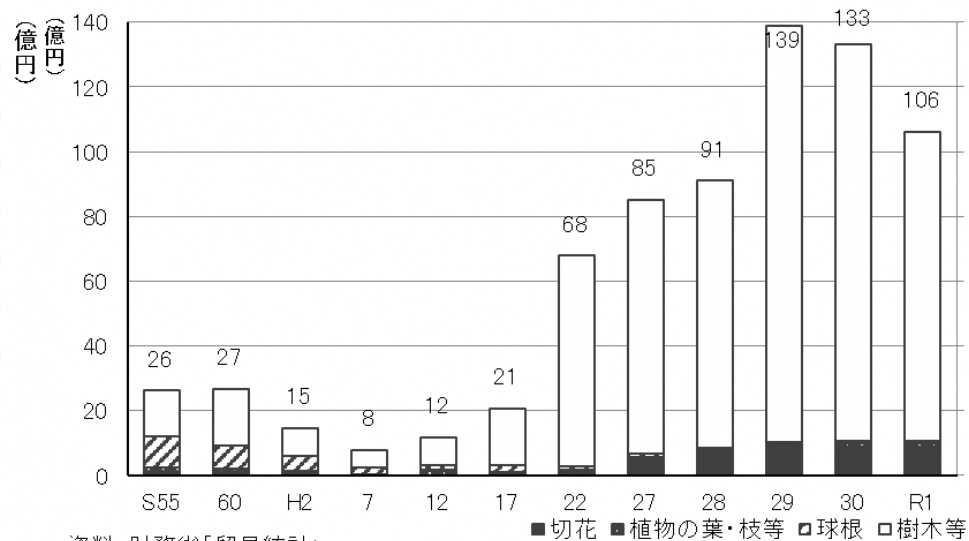
- 花きの輸入は、切り花類が大半を占め、関税が撤廃された昭和60年以降、数量・金額ともに増加し、近年は横ばいで推移している。
- 花きの輸出は、植木等を中心に、近年大幅に増加していたが、令和元年は前年比2割減の106億円となった。
- 道産花きは、産地で輸出向けに出荷していないが、出荷先の市場等で輸出に仕向けられる場合がある。

■ 切り花類(切り花・葉枝)の輸入状況



資料: 財務省「貿易統計」

■ 花き類の輸出状況



資料: 財務省「貿易統計」

7 施策の方向

(1) 北海道花きの振興に関する条例の策定

- 令和元年10月、北海道花き生産連合会など、花き関係13団体から条例の制定を求める要望を受け、令和2年第2回定例道議会に自民党・道民会議から単独提案され、制定。7月14日に公布

北海道花きの振興に関する条例案の概要

目的

花き産業の持続的な発展及び道民の豊かで健康な生活の実現

定義

- ・花き～鑑賞の用に供される植物
- ・花き産業～生産、流通及び販売の事業

道の役割

- ・施策の総合的な推進
- ・花き振興計画の策定
- ・国、市町村、道民・花き産業事業者などとの連携

道民の役割

- ・花きに対する理解を深め、活用に努める
- ・道の施策に協力

花き産業事業者等の役割

- ・質の高い花きの供給や花きの活用促進のための普及・啓発
- ・道の施策に協力

花きの振興施策

- ・花き産業事業者の安定的な生産及び流通の高度化
- ・家庭や学校など日常生活における花きの活用促進
- ・花き及び花き文化の普及啓発、情報提供
- ・公共施設やまちづくり、社会福祉施設などにおける花きの活用促進

花の日

北海道花の日(8月7日)の制定

(2) 北海道花き振興計画の概要

- 花き産業の健全な発展と心与太かな国民生活の実現に寄与することを目的に、平成26年6月に議員立法により「花きの振興に関する法律」が成立、同年12月に施行。
- 道においても、花き産業及び花きの文化の振興に関する基本的な方向を明らかにするため、補に基づき27年4月に策定された国の「花き産業及び花きの文化の振興に関する基本方針」に即して、平成28年3月に「北海道花き振興計画」を策定。令和2年度中に次期計画を策定予定。

■ 現行計画の振興方策 (H28.3策定 平成37年度目標)

- 1 高品質な花きの安定生産体制の構築
 - ・ 消費者・実需者ニーズに対応した高品質花きの安定生産体制の構築
 - ・ 担い手や労働力の育成・確保
- 2 流通体制の高度化
 - ・ 花きの鮮度や品質保持に向けたコールドチェーンの確立
 - ・ 輸送コストの低減に向けた効率的な輸送体制の構築
 - ・ 道産花きの輸出に向けた検討
- 3 試験研究及び技術普及の推進
 - ・ 花き栽培の高品質化・生産性向上のための技術や花きの品質保持・安定出荷に向けた技術の開発・普及
- 4 道産花きの需要の拡大
 - ・ 花きの関係者の連携による道産花きの評価工場や花きの多様な公用のPRを通じた需要の拡大(花チェーン)
- 5 花きの文化の振興
 - ・ まちづくりにおける花きの活用促進や道産花きを活用した花き文化の振興

■ 現行計画の作付面積及び生産量の目標

区 分	平成25年度(現状)		平成37年度(目標)	
	作付面積	出荷量	作付面積	出荷量
花き合計	854ha		860ha	
切花類	498ha	129,200千本	500ha	136,000千本
鉢もの類	22ha	3,960千鉢	22ha	4,200千鉢
花壇用苗もの類	33ha	15,100千鉢	33ha	15,800千鉢

※作付面積全体には、球根類、花木類、芝を含む

現状対比	
作付面積	出荷量
101%	
100%	105%
100%	106%
100%	105%

(3) 花き対策事業の概要

○ 道は、北海道花き振興計画の振興方向に基づき、生産対策や需要拡大などの取組を実施。

事業名	開始	財源	内容
次世代国産花き産業確立推進事業	R1	国費	生産者、研究機関、流通関係者、販売事業者、花文化団体など花き業界関係者が一堂に会する協議会を設置・運営し、本道における花きの生産・供給体制の強化、需要の拡大を図る。 ※事業主体：北海道花き振興協議会(事務局：北海道)
公共施設等における花きの活用拡大支援事業 (道産花き緊急消費拡大促進事業)	R2	国費 道費	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、消費が減退している花きについて、公共施設等における花きの展示等の活用を拡大する取組を支援し、道産花きのPRに取り組むことにより、道産花きの消費拡大を緊急的に促進する。 ※事業主体：北海道花き振興協議会
強い農業づくり交付金事業・産地パワーアップ事業	H17・H28	国費	産地が取り組む競争力強化や収益力向上に向けた施設整備及び機械導入への支援
農産物供給体制確立事業 (花き生産推進指導対策)	H31	道費	道産花きの生産振興を図るため、生産出荷状況等の調査・分析や産地との意見交換を行うとともに、消費者向けに花の情報発信を行う。
北海道フラワーウォーク運動推進事業(赤レンガ・チャレンジ事業)	H23		周囲の方々に見えるように、参加者が道産花きの花束を持ち帰る「北海道フラワーウォーク」を実施して、北海道産の花をアピールするとともに、花のある暮らしの推進と花の消費拡大を図り、北海道らしい花文化を創出する。 ※事業主体：北海道フラワーウォーク実行委員会(事務局：北海道)
花いっぱいプロジェクト	R2		新型コロナウイルスの影響により、各種イベントが中止され、需要が大きく減少している花きの消費拡大を図り、生産者やお花屋さんを応援するため、庁内で花を飾る取組を実施